

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390300509		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	第2グループホーム愛生		
所在地	熊本県人吉市南泉田町115		
自己評価作成日	平成 31年 1月 22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益財団法人 総合健康推進財団 九州支部		
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38		
訪問調査日	平成31年3月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

医療法人に属しており、医療機関や訪問看護ステーションも近くに位置しています。系列病院の主治医による訪問診療を取り入れており、緊急時の対応や夜間受診の際には訪問看護と医療機関が連携をとり、適切な医療がうけられる様に支援しています。認知症の進行予防に、くもんの学習療法を取り入れ入居者とのコミュニケーションを深めています。又、各利用者の方の誕生会では外食の計画も行っております。イベントでは、5事業所合同で夏祭りや文化祭等行っております。ハード面では天然温泉や、防火耐火建築、太陽光発電を設置しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

病院が母体の医療法人で高齢者福祉関係のほぼ全ての事業が地域に展開していて、社会福祉法人も設立しケアハウスの運営も手掛けています。9年前に幼稚園の隣に4棟の施設を建て、その中の1つの棟の3階部分に当施設があり、見晴らしも良く静かな環境です。棟の1階は小規模多機能施設で2階は住宅型有料老人ホームの運営がなされています。入居者は現在9名中4名が1階の小規模多機能の利用経験者です。病院が母体であり医療の連携は密で利用者の夜間の体調不良にも対応が可能です。職員は正職員が殆どで母体法人が大きいため福利厚生等が充実し働きやすい環境が整っています。又法人では火災や防災にも力を入れており救急車の配置や民間の防災システムが導入されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がそれぞれ大事だと思う単語を合わせて作った理念を施設内に掲示している。また、朝唱和し共有している。	2年前に職員全員で考えて作成した理念を毎朝唱和し共有している。施設の理念は、職員の意見があれば話し合われて、必要時には変更されています。	法人の理念に添った施設理念への取り組みとその理念がもっと職員に共有できケアに反映できるような取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントの際には地域のボランティアを募って、地域の方に参加して頂いている。訪問販売である、よかもん市を多目的ホールで行っており買い物を楽しんで頂いている。	隣接した幼稚園との交流がよく図られ、行事ごとに参加している。地域の方からの要望にも応え、移動販売に来てもらっている。施設から踊りなどのボランティアの方に、施設を訪問をしていただくよう依頼をしている。	3階にある施設ですが、出来るだけ地域住民と利用者との相互交流が図れるような取り組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー養成研修の施設実習を受け入れている。 ボランティアスクールを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の状況を聞いて頂いている。地域での行事予定、現状、等の情報を聞いている。	会議には、家族は勿論、行政、町内会長、民生委員、社会福祉協議会のメンバーの参加がある。参加された町内会長から地区の祭りへの案内があり参加したりしている。	会議では伝達するだけでなく、もっと積極的に意見交換ができる会議になるような工夫に期待します。また、社会福祉協議会等をとの活発な交流や活用を期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メール、FAX、運営推進会議にて感染症や研修の案内等の情報を頂いている。	感染症等の研修案内等の情報を得たり、市の介護相談員の訪問を受け報告を貰っている。身体拘束研修の在り方やインフルエンザの報告方法など市役所の職員に助言を貰う等の協力関係が出来ている。	今後更に市の相談員等からの情報を上手く活用する事で、ケアの質が向上することに期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて年に3回以上のの研修予定と毎月身体拘束委員会を開いており、各自身体拘束にならないケアを考えている。	毎月、1階にある小規模多機能ホームとの合同で身体拘束委員会を行い、多くの職員参加を促している。例えば、眠剤使用が家族から要望された際には、委員会にかけられその結果が家族に伝えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行っており、外部での研修に参加出来る場合には参加する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行っている。外部研修に参加出来る場合には参加する様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を頂いて十分に納得された上で契約をしている。入院時や、病状の説明等必ず御家族の方へ連絡する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、御家族の方にも参加して頂き意見を言って頂いている。また、半数以上の御家族の方が遠方におられる為、現状報告の電話をした際に要望等を言われる方もおられた。	運営推進会議には、毎回1人程度の家族参加があっている。その中で食事のキャンセルの際の費用負担の件で意見が出された際には、法人で話し合われ解決されている。	遠距離在住の家族数が利用者の半数あり、直接意見等が効きにくい状況を改善するための更なる工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行っておりイベントや利用者の方、業務について意見、提案を出し話し合っている。	職員間で運営についても話し合いが行われていて、職員からの乾燥機の購入要求に関しては、管理者から施設長に要望を上げ購入されたりしている。また、資格取得に関しても管理者が許可し長期間の休暇が取られたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換に、年に2回スポーツ大会を行っている。また、希望休みは取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	愛生会の掲示板にて研修の情報を公開しており、いつでも見れる様になっている。職員研修に関しては自分で調べ、講師役となり研修会を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて情報交換し問題解決に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は出来るだけ本人様と御家族の方と昔の話等お話をし、どういった方なのか、何を好まれているのか知る事を大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族から意見を聞き、その要望に近づけるようにしている。また、利用者の方の状況が変化した場合等、面会時等話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった際には問題点を考え法人内外のサービス利用も含めた検討を行う。利用者の方の趣味等も聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は自分でしてもらっているが、洗濯物たたみ等出来る方には職員と一緒にたたんでいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、外食に行かれる方がおられる。その際に現在の状態を伝えて外出して頂いている。また、正月には外泊された方もおられ、外泊の準備をし帰設されてからは、外泊中の状態を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所が自宅である場合は、散歩中に話を聞きながら自宅まで案内して頂き自宅前で写真を撮っている。また、散歩で行ける範囲ではない方で、外出出来る方はドライブ中に自宅まで行く事を目標としている。	管理者がドライブと称して過去に6名の利用者を、自宅に一時帰宅させた際の写真が残されている。階下の通所者が3階に面会に来て交流がある。又、地元の祭りに利用者が参加している。	更に活発に地域への外出の支援等に取り組まれ、もっと利用者の生活空間が広がるような取り組みに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の利用者の方が入所された際には自己紹介し、性格が合いそうな方と交流の場を提供している。また、利用者の方にあった食事の席を考え提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了されても、御家族との関係は現在も続いており当時のお話等している。一部の御家族も「ここに来るとまだ利用している気がする」と訪れられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族の方が面会に来られた際に、昔聞いていた曲や趣味等聞きその人らしく昔の生活に近付ける様に支援している。また、認知症の状態を見ながら対応している。	主に1階の小規模からの入所者が多く、スタッフからの情報を貰っている。面会に家族が来られた際には管理者が聞き取りを行い、好みの照明や好きな音楽を尋ねたりしており、中にはぬいぐるみを持ち込んでいる利用者もいる。	もっと、「自宅にいるような・家庭らしい」雰囲気作りや、その人となり想像できるような「自分の部屋作り」を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の方本人や、御家族の方に昔の過ごされ方、趣味、生活リズムを聞いて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録、申し送りノート、職員会議等で情報共有し、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の、ケース会議と職員会議を開いて職員で話し合っている。その月に計画した事を翌月に、結果を話し合い記録に残している。	月1回の職員会議で話し合われた結果、例えば水分補給にゼリーを取り入れるなど改善が行われている。また、話し合われた内容は職員が周知できるように回覧されている。	更なる、積極的な職員のケアの統一で個別的な介護計画となり、質の高いケアに繋がる取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を業務日誌に記録し、特記事項はケース記録へ記録。そのケース記録を元に、ケース会議で話し合い、ケース会議議事録としても記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の希望がある場合には、訪問歯科を依頼している。また、オムツ類等必要な物は買い物を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のスーパーより、2カ月に1回訪問販売していただき買い物をして頂いている。また、近くの食堂にも誕生日に外食している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の方の了承を得て法人内の医療機関をかかりつけ医として訪問診療を受けている。必要時には他の医療機関の受診も行っている。	病院が母体であり、ほぼ同法人の医療となるが、精神科には別に通っている。2週間に1回は同法人の医師が往診に来ており、毎週火曜日には契約している訪問看護が来て血糖値等を含め健康管理されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと連携し、毎週火曜日に健康チェックを行ってもらっている。その際に指導や指示をもらい、緊急時には夜間でも連絡にて対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院した際には、病院のソーシャルワーカーと情報交換出来ている。また、毎月ある管理者会議や入退院調整会議で法人内事業所との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命意思確認書を作成している。病状が悪化する可能性がある場合は、緊急時や延命について延命意思確認書を元に御家族やDr、訪問看護と話し合いを行っている。	延命意思確認書を利用者との間で交わしている。現在の利用者の中には、数名の延命希望者がいらっしゃる。まだ、看取りの方針等は作成されていない。	今後に備えて、職員や家族等の意見を取り入れながら、看取りに関しての方針を作成されることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全職員が受けている。グループホームの連絡会にも普通救命講習を取り入れられており、参加している。急変の可能性のある方は病院や、訪問看護に相談している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の訓練と事業所での訓練も行っている。初めての、夜間水害訓練(夜勤者一人)を想定した訓練も行った。	災害に対しては、法人で救急車を常に整備している。昨年は消防署と一緒に昼間想定で5事業所全体で火災、風水害での避難訓練、自家発電訓練も実施している。民間業者委託による緊急時自動ドアロック解錠システム導入あり、施設の窓は強化ガラスを使用している。	避難場所の再検討などで安全な避難方法の確立に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ類は見えない所に置いている。居室のドアも訪室後は閉め、パット交換後のパットも新聞に包んで処理している。	使用済みパットの後始末は目に触れないようにしている。普段のケアでは、ドアのノックの徹底や、失礼の無い声掛けの方法等を職員会議の中で話し合われている。調査時にも気になる発言は無かった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方には入浴前に衣類の選択を行って頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者の方のペースで寝たい時には休んで頂いている。徘徊のある方も、制止せず好きな様に移動して頂き必要な場合のみ声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛が伸びたら、訪問の美容師の方に切っていただいている。光る物を好まれている方には、光っている靴を購入する等、その方に合った物を考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に献立に沿った食事ではあるが、イベントの際には食事止めし、イベントに合った食事を提供している。食事の準備は、食事を作る状況と、利用者間のトラブルもあり中止にしているが、片づけは出来る方にはキッチンまで運んで頂いている。	外部から栄養管理された色々なレトルト食事が届けられ、職員が温めて盛り付けている。時折、家族の要望に応え外食をしたり、甘いおやつや飲み物の種類を増やし選択できるようにしている。誕生日のムース食を飾り付けを手伝ってもらう等の工夫をしている。	今の現状の中でも、自分の家と考えた家庭らしい食卓、料理の匂い、音等や食事づくりへの参加等の工夫に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは外部のナリコマより管理してもらっている。食事、水分量は毎日チェックしており記録にも残している。水分摂取が困難な方にはお茶ゼリー、ジュース等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は自分でして頂き、最終的に職員が介助している。異常がある方は、訪問歯科にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る方には、ずぼん、パンツの上げ下げの声かけを行っている。排泄チェック表の活用で、排泄パターンを考えている。	排泄のチェック表から、排尿のパターンを読み取り、誘導などから始まり、今は失敗が無くなっている。失禁していた方が自立に繋がったケースも出て来ており、排泄パターンを考えた利用者のうち、約80%が改善に向かっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便日のチェック、水分チェックを行い便秘にならない様に心がけている。食物繊維や、乳製品でも対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴と曜日は決めているが、時間は朝のバイタル測定等の、本人の体調に合わせてながら入浴して頂いている。	天然温泉でかけ流しヒノキ風呂で機械浴も設置されている。入浴拒否がある利用者へは根気強い声掛けし朝9時から午後4時までの時間に入るようにしている。着替えを一緒に選んだり、好みの石鹸や音楽等をかけるなど入浴を楽しむ工夫に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	オムツ交換により、入眠の妨げにならないように、長時間のパットを使用している方もおられる。フロアには、畳とソファを設置しゆっくりして頂ける場所を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬ファイルを作成しており、いつでも職員全員が見れる様にしている。また、薬の準備も固定した職員ではなく皆で準備し把握する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は、台拭き、洗濯物たたみ、カーテンの開け閉めをして頂きその都度感謝の言葉を言う様にしている。嗜好品は、望まれた際に職員の数にも限ってしまわれるが多い日に購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月御家族の方と外食されている方や、正月には自宅に外泊された方もおられる。ドライブでは、行きたい場所を聞いてドライブする日もある。	家族の方との毎月の外食や、正月の一時帰宅で宿泊なども行われている。外出の希望も「季節の花を見に行きたい」や「買い物に行きたい」など、ドライブも行われている。暖かい時期には、散歩にもでかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、職員で管理している。可能な方に限り、買い物を希望される方には預かり金よりお金を渡して買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴え時には、こちらから電話をかけ受話器を渡して話して頂いている。また、御家族の方に毎月広報を出して状況報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホーム内に飾り物をして模様替えをしている。毎月手作りのカレンダーを作成しており、契約時に写真の掲示の許可を得た方のみ季節のカレンダーに写真も貼っている。	次亜塩素酸が入った加湿器でインフルエンザ予防を図っている。廊下が広くソファーや畳間を職員が作って休憩しやすい環境にしている。居間兼食堂では、カウンター等が低くしてあり、空間が広く感じるような工夫がされている。	もう少し、自宅を連想できるような雰囲気作りの工夫に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	病状や、会話等からその方に合った位置を考え、食事の席を固定した席にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物を好まれている方には、以前から持つておられたぬいぐるみを飾ったりしている。また、居室で休まれる事が多い方には御家族の方の写真も飾っている。	部屋には障害物も無く、シンプルな空間で明るく広いです。家族写真も飾られていたり、好みの私物などもおいてある。	もっと、自宅の雰囲気が感じられ、その人らしい生活や趣味等が想像できるような居心地の良い部屋作りに期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きな字で利用者の方から分かれる様にトイレではなく便所と表示している。居室前にある表札では現在の名字では嫌がられる方には旧姓で記載している。また、カレンダーも1カ月のカレンダーと日めくりカレンダーを飾っている。		